

令和5年度

八尾市市民活動支援ネットワークセンター
運営に係る業務報告書

特定非営利活動法人やお市民活動ネットワーク

= 目次 =

1. はじめに	1
2. 本編【 業務報告 】		
2.1. 中間支援業務		
2.1.1. 情報収集・情報提供業務	2
2.1.2. 社会貢献活動等の支援業務	4
2.1.3. 多様な主体による連携・協力促進業務	6
2.2. 「つどい」の管理運営業務		
2.2.1. 管理運営の時間帯等	7
2.2.2. 管理運営業務の内容	8
2.3. 組織体制	9
2.4. 業務報告及び評価（マネジメントサイクル）	10
2.5. 「つどい」を介して連携につながった相談対応等	18
2.6. 成果及び課題と改善点	30

1. はじめに

八尾市市民活動支援ネットワークセンターは、平成 16（2004）年 10 月 1 日に市民活動・ボランティア活動の拠点として、市民活動団体と長年の協議のうえ、八尾市が設置しました（愛称は「つどい」）。3 月末現在で、開設から 19 年半になります。

運営は八尾市より「特定非営利活動法人 やお市民活動ネットワーク」が受託しています。

さて、「つどい」は「多様な活動主体による協働づくりと公益を産み出す中間支援センター」を目指し、市民活動団体やこれから携わりたい方に加え、「多様な活動主体を支援・連携をコーディネートする中間支援センター」として、長年に渡り業務を行っております。

2021（令和 3）年度より「八尾市 第 6 次総合計画 ～八尾新時代しあわせ成長プラン～」の計画期間となり、「共創と共生の地域づくり」に向けて取り組んできました。対話の場を設け、地域の課題解決や魅力創出の取組みを総合的に進める「校区まちづくり協議会」が中心に担われる中、「つどい」等の中間支援組織は校区に限らず市内各地域や市外とのネットワークを活用し、外部人材等の紹介や課題解決のヒントとなる情報提供等を行うことで活動支援を行わせていただきました。

この点では、「わがまち推進計画」の策定後も、引き続き若年層スタッフが「地域活動」から「地域のまちづくり」へと意識した取組みに寄与させていただくため、Instagram のレクチャーの支援や校区まちづくり協議会の行事に参画しグラフィックレコーディングを行う人財を紹介し、当日も連携しながら運営進行の補助とコーディネート支援をさせていただきました。

今年度は、近年、委託運営団体の理事長と業務責任者（副理事長）での公益づくりへ向けた運営における考え方、取組み方、目的について相違があり、運営面で支障を来しました。理事長及び業務責任者（副理事長）は、運営において一步距離を置くことになりました。つどい業務責任者が 5 年以上前から世代交代を謳っている中、このような形ではありますが着実に次期業務責任候補者であるフルタイムスタッフに事業継承が進みました。来年度「つどい」開設丸 20 年を迎えるにあたり、事業承継が進まないのが課題ではありますが、事業継承は出来て来ました。

昨年 12 月で業務責任者を拝命して 12 年が経ちました。20 才から市民活動の世界に飛び込み、22 年以上が経過しました。市民活動とその支援に携わらせていただきながら、市民活動や中間支援の目的を模索して来た中、やっと答えに行き着いた 1 年となりました。

答えに行き着いたヒントになった出来事として、今年度の協働・連携時につどい登録団体から次のようなフィードバックをいただきました。

「市民活動の世界や八尾の地域社会と交わりながら、つながる嬉しさや喜びを味わってもらえる機会や役割が「つどい」といった中間支援（つなぎ役）ではないですか。」

つながる嬉しさや喜びは、時には何年も経過してから味わい実感することがあります。中間支援は人の意識といった目に見えないものを扱います。そのため、すぐには気付かないもしくは効果があらわれません。しかし味わい実感する時に、八尾を好きになる気持ちや八尾のまちに愛着を持つようになるなど短期間では得られないものがあります。また市民活動を始めたきっかけや活動の実績が始まったきっかけは、「つどい」での支援やつながりが始まりだったことに気付き、実感してもらうことに、とても時間を要します。そのような業務を 20 年近くさせていただきました。1 年間の報告ではなく 20 年近くの蓄積がどこかに眠っていることをご配慮賜りましたら、有難いです。

公募型プロポーザル応募時に提案で掲げたコンセプト「人づくり・人育て」へ向けた業務委託契約（4 ヶ年度）の 3 ヶ年度目のご報告をさせていただきます。

令和 6（2024）年 3 月

特定非営利活動法人 やお市民活動ネットワーク

つどい業務責任者（副理事長 兼 事務局長） 新福 泰雅

2. 本編【 業務報告 】

2.1. 中間支援業務

2.1.1. 情報収集・情報提供業務

(1) 多様な主体による社会貢献活動に関する情報収集

■ 交流会開催時の情報の収集

山本コミセンラウンドテーブルが5回開催された。主催ではなく、いち参加者として5回参加させていただき、校区まちづくり協議会や山本出張所から情報を収集した。

■ つどい井戸端会議（全て Zoom にて開催）開催時の情報収集

毎月1回開催を行い、多様なテーマから参加者の活動内容や意見などを収集した。

昨年度、「つどい井戸端会議」に久々に参加をし、孤独になりがちな子育て生活の中、育児休暇の親が語れる場として非常に助かったと言う声をいただいた。参加者に校区まちづくり協議会や防災活動を紹介していただき参画することが出来、地域社会へつなげていただき、非常に助かったと感謝をされておられた。今年度も引き続き参加をいただき、校区まちづくり協議会及び自主防災組織の活動について情報収集を行うことが出来た。

つどい井戸端会議で放課後デイサービスを知り、紹介を受けて複数年に渡り放課後デイサービスの講師を務め連携を深めて行かれ新しい活動先の提供にもつながった。

久々に参加した市民活動団体から校区まちづくり協議会の Web 製作に携わった話題を提供いただき情報を収集することが出来た。つどいに新しく登録された団体、アート活動される方、世界一周を再開させ社会問題等を撮影したい方等、新しい方の参加もあった。

アート活動をされている方から、「高安さくら商店街」の関わり、近鉄信貴線で運行している「高安まなびやま」のヘッドマークの採用等についても情報収集することが出来た。

■ その他の情報収集

「プリズム運営ネットワーク会議」に参加し、「プリズムホール」「FM ちゃお」「八尾市観光協会」の近況活動等について、「やおうえるかむコモンズ推進会議」の参画、ふるさと納税の現状、FM ちゃおの閉局等に関して収集することが出来た。

(2) 多様な主体による社会貢献活動に関する情報提供

■ 広報支援・助成金情報の発信

- ・ 広報支援（情報発信の支援）としては、つどいブログ・SNS（Face book・Instagram・Twitter）を使って各種活動情報を発信（117件：前年度比+20件）。
- ・ 「つどいブログ」での助成金情報の掲載（14件：前年度比+5件）。
- ・ 「八尾市市民活動支援基金事業助成金」の1次募集時に検討していた団体（1団体）に個別で2次募集情報を提供。

■ 各活動主体が必要としている情報提供（個別対応）

- ・ 個別に対応し情報を提供（大きな案件は5件：前年度比▲12件）。今年度は新しい情報提供の実施や資料提供といった大きな案件が多く、1案件につき複数団体、10団体を超える個別対応もあった。
- ・ つどい登録団体向けに新しい広報先として高美町5丁目町会及び都塚北町会に電子回覧での広報に協力をいただいた。高美町5丁目町会には延べ11団体、12の行事開催案内ちらしを電子回覧により広報協力いただいた。都塚北町会には試験的に1団体、2つの

- 行事開催案内を電子回覧により広報協力いただいた。また、都塚北町会には紙媒体での回覧または配架として、3 団体、4 つの行事開催案内の広報に協力いただいた。1 団体は関連してポスター掲示による広報も協力をいただいた。
- ・ 新興住宅地で未就学児が 20%を超える（八尾市平均 3.6%）都塚北町会及び都塚南町会に対して、つどい登録団体等の行事開催ちらしや団体紹介パンフレットのポスティング・手渡しを 5 回に渡り、延べ 11 団体、12 の行事開催ちらしや団体紹介パンフレットの提供を行った。ターゲットを絞り、ターゲットが必要とする情報提供を行ったことで個展来場者の増加と来場者の属性の変化（親子、ママ友などの新しい来場者）、体験会の子どもの参加が大幅増加するなど、効果があらわれ出し、市民活動団体の支援につながった。
 - ・ サポートやおボランティアセンターへの情報提供として、「つどい登録団体」一覧表の提供を実施。つどい登録団体の内「保健・医療・福祉」を主たる活動分野に該当する団体及び従たる活動分野に該当する団体の開示情報の提供(81 団体)を行った。提供した 81 団体の内、サポートやおボランティアセンターへ登録をされていない団体がおられないかを探す資料として、今後のサポートやおボランティアセンターの登録促進の支援の一助として提供。
 - ・ 八尾市市民活動支援基金事業助成金交付決定事業への支援として開催行事の広報を 5 団体、取材を 3 団体実施。また 1 団体はつどい登録の未申請であったため登録対応を実施。「FREE バッグ事業」実施団体である「創造者(ツクルモノ)」に、「消しゴムハンコ」及び野菜を切った口をハンコにスタンプした「エコバック」を貸出し行事開催の一助につながった。
 - ・ これまで持込提供により収集した「つどい登録団体」の活動記録冊子・情報紙等を、八尾市立図書館へ昨年度に続き 124 点提供した（保留・検討を含む、1 点不採用含む）。1 年後を目途に八尾市立図書館 2 階地域郷土資料として保管・閲覧される。またこれから市民活動を始める方の参考資料・研究資料としての情報提供につながる。八尾市立図書館でも知らない活動記念冊子や情報紙もあり、貴重な資料であることを再認識した。
 - ・ 今後の連携先の紹介・顔合せ：行事企画者と体験プログラムの提供者を顔合せ（次年度に向けた体験会・講座の行事を連携して実施する予定）
- その他の情報提供
- ・ 「つどい登録団体」へ「八尾市市民活動支援基金事業助成金」の募集案内をメールと郵便で 2 回実施（2023 年度募集案内：4 月実施、2024 年度実績報告会及び募集説明会案内：3 月実施）。
 - ・ つどいホームページ「つどい登録団体紹介ページ」の更新として、PDF 化した取材時の記事閲覧出来るようリンクの貼付け及び更新を実施。
 - ・ 「つどいパンフレット」を追加で 500 部印刷（6 ヶ年度で累計 6,000 部を印刷）。
 - ・ こども若者政策課の『八尾市こどもサイト「あつまれ八尾っ子！！」イベントカレンダー』への「つどい登録団体」情報の掲載。
 - ・ 「つどい発行物」の内、「ニュースつどい」を八尾市立図書館に「地域郷土資料」として追加提供・寄贈を行った。すでに「ニュースつどい」を提供していたが毎号 1 部のみの提供であったことから保管用のみであったが、追加提供・寄贈により開架図書として閲覧用・貸出用として今後は活用される。

2.1.2. 社会貢献活動等の支援業務

(1) 社会貢献活動に関する相談

■ スタッフによる相談対応

- ・ 今年度の相談件数は、昨年度と同件数であった（131件）。

<相談業務記録>

相談内容 (複数該当あり)				活動主体								相談分類		
紹介・提案	レクチャー	助成金対応	その他	市民	市民活動団体	地域活動団体	行政	公共施設	事業者	教育機関	その他	設立相談	運営相談	NPO法人以外
114	13	4	0	42	39	16	5	4	18	6	1	1	2	128
131				131								131		

なお、相談業務記録は前項の「2.1.1.(1)多様な主体による社会貢献活動に関する情報収集」業務の聞き取りも兼ねてデータベースに入力した。

(2) 校区まちづくり協議会活動の効果検証支援

- ・ 今年度は3小学校区の校区まちづくり協議会において「支援に至った経緯」「支援方法」「効果」「効果が見られた場所：様子」について、検証をまとめた。つどいスタッフがコーディネート支援を通じて、団体紹介と共同提案により連携が開始され、また協働実現には至っていないが広報の協力関係の構築が進んだ。新しい広報媒体のスキルアップ支援になり運用まで進み出した。
- ・ SNSアカウント開設に向けて、Instagramの開設・運営のレクチャーとアドバイスといった支援を行ったことで、情報発信の幅を広げることが出来た。情報発信の精査といった発信時のポイントや本当に届けたい情報を考える機会になり、運営されるメンバーに伝え議論するかも考えられた。行事来場者向けに広報することを報告いただいた。
- ・ 校区まちづくり協議会はホームページの開設でアドバイスされる方を探しておられた。つどい登録団体で地域活動団体と関わりたい団体がホームページ製作をされていることからご紹介し、「つどい」が協働提案を行った。現地訪問し顔合せし双方の課題をヒアリングし、負担の偏りが無い協働方法を見つけることが出来た。活動先の見学と会長が考える展望をお聴きする内に課題解決のための具体的な話が進んだ。長いお付き合い（連携）を望む関係性まで構築することが出来た。
- ・ 校区まちづくり協議会の行事（イベント）開催に子どもの健全育成団体との協働を求めておられたため、団体紹介と協働提案を行った。現地訪問し顔合せし双方の課題をヒアリングし、負担の偏りが無い協働方法を見つけることが出来た。7月の行事（イベント）開催に協働出来るよう照準を合わせていたが、団体の活動とスケジュールが合わせず行事開催における協働の実現は至らなかったが、広報の協力関係の構築として連携を行っている。

(3) 社会貢献活動に係るスキルアップの支援

- 校区まちづくり協議会等へのワークショップ支援
 - ・ 山本小学校校区まちづくり協議会の小中学校に向けたワークショップ支援。
小中学生からの要求実現として市長との対話の場を設けるにあたり地域課題についてワークショップに、ファシリテーターとして参加。進行の補助としてグラフィックレコーディングを提案し実施出来た。
- 市民活動団体への Instagram 開設にあたっての手法をレクチャー
 - ・ つどい登録団体からの相談対応として、Instagram のアカウント作成方法や運用する上での留意点などをレクチャー。運用ルールを決める際も同席しアドバイスを実施。
- 校区まちづくり協議会対象の SNS 講座（打合せ）
 - ・ 委託元と校区まちづくり協議会対象の SNS 講座の打合せを実施（7月）。
- 講師派遣：グラフィックレコーディング提案とコーディネート支援
 - ・ 高美中学校2年生を対象として防災教室を高美小学校校区まちづくり協議会が主催された。避難所運営ゲーム HUG の体験学習と外部講師からの避難所開設の2部制で実施。
 - ・ グラフィックレコーディングをされる方を紹介し派遣した。体験学習の進行方法の事前打合せから参加しコーディネートを実施。
- その他（スキルアップ支援の準備としてレクチャーを受ける）
 - ・ 電子帳簿保存法及びインボイス制度について株式会社ソリマチからレクチャーを受けた（今後、市民活動団体からの問合せ・相談対応準備として実施）。

(4) 社会貢献活動への参加支援業務

- つどい体験会の開催
 - ・ 今年度は2回開催。引き続き、「特定非営利活動法人自然環境会議八尾」と「エコロジー美園小」との共催により、中環の森において「つどい体験会」を実施した。
 - ・ 河内木綿の栽培で携わる「美園小学校校区まちづくり協議会」との協働継続が出来た。
 - ・ 「エコロジー美園小」が活動休止により、来年度4月7日をもって中環の森での「つどい体験会」を終了する。11年4ヶ月をもって終止符を打つ。
 - ・ 大阪府と「特定非営利活動法人自然環境会議八尾」とのアドプトロード契約により菜の花栽培は継続され、「美園小学校校区まちづくり協議会」の協力も継続される。
- 交流会の開催
 - ・ 今年度は、計18回開催。
 - <内訳>
 - 「つどい支援井戸端会議」Zoomによるリモート開催。毎月1回を基本に計12回
 - 「山本コミセンラウンドテーブル」偶数月1回、計5回（8月は中止）
 - ・ 「つどい井戸端会議」は情報収集業務（P2）に掲載した通りである。つどい井戸端会議から、校区まちづくり協議会・自主防災組織へ参画する機会につながり、孤独な子育てである親を癒やす機会にもなった。つどい井戸端会議で放課後デイサービスを知り、紹介を受けて放課後デイサービスの講師を務め連携を深めて行かれ新しい活動先の提供にもつながった。市民主体のまちづくりを意識した人財を輩出する機会になった。
 - ・ 「山本コミセンラウンドテーブル」は地域活動団体同士の顔合せの場となり、各小学校校区での事業の取組み方の共有や、校区まちづくり協議会に関する情報提供に努めた。

- ・プリズムホールからのご依頼・提案により、つどい登録団体「八尾で絵の本ひろば広げよ会」との連携により「つどい」と3者協働で、プリズムホール1階オープンスペースで「和ろうそくは、つなぐ」の展示会を実施。著者が展示会に駆け付けてお越しになることがわかり、急遽、ギャラリートークを開催した。

2.1.3. 多様な主体による連携・協力促進業務

(1) 連携・協力のコーディネート

- ・相談対応後の経過状況は、今年度の相談対応から団体紹介等によるマッチングが大半であった【マッチング件数：30件】
- ・別途、昨年度の相談対応から団体紹介等によるマッチングもあった【マッチング件数：2件】。

■ 連携・協力に関するその他の事項

- ・西郡まちづくり協議会と北山本小学校区まちづくり協議会の担当である新しいコミュニティ推進スタッフが異動されたため、ご挨拶と訪問を行った。
- ・昨年度の連携開始の取りまとめを実施。14件となった。
- ・歴史ある地域資源の提供として、写真「高安山は、はげ山」の作品を旧北高安小学校区内の廃校きんぱく博物館に常設展示してもらった。廃校の跡地利用を行う高安中学校区まちづくり協議会に情報提供を行った上で実施。
- ・来年度から「やおうえるかむコモンズ推進会議」副会長からつどい業務責任者へアドバイザーの就任依頼を受け、来年度から就任予定となり、貴推進会議と連携を図る。

■ プリズムホール・つどい登録団体との連携創出によるコーディネート支援

- ・プリズムホール1階オープンスペースで「和ろうそくは、つなぐ」の展示会を実施。
- ・協働・連携では、プリズムホールからのご依頼・提案により、つどい登録団体「八尾で絵の本ひろば広げよ会」と「つどい」と3者協働につながった。「つどい」から実施計画を作成し3者で目的・内容・方法・会計・役割分担など打合せを行った。
- ・特に「八尾で絵の本ひろば広げよ会」代表が会社の有給休暇を使い果たしてでもほぼ毎日会場に詰めていただいた。レイアウト提案、展示物の提案など積極的に大胆に絶大な協力をいただいた。著書が展示会に駆け付けることで、急遽、ギャラリートークの開催にもつながり、プリズムホールが大学の講義を受け持っていることから、近畿大学生15名も見学に参加し、総勢40名規模の参加になった。
- ・「つどい」として、会場隣のカフェ・レストランとの連携を図り、ギャラリートークの参加費徴収の際に、加えてワンドリンクの注文をしてもらい売上支援を行った。カフェ・レストランとの行事開催による連携はプリズムホール自身も行ったことがなく初めての連携となった。
- ・1階オープンスペース利用では、読み聞かせなどを行ったことは何度かあるが、基本的に展示以外で使用したことがなかった。プリズムホールのご理解もあり、初めてギャラリートークを実施した。沙龙的な場を設けても行事が成り立つこと、来場者も喜んでおられたことで、それ以後「やおうえるかむコモンズ推進会議」でもギャラリートークとして利用されることにもつながっている。
- ・ギャラリートークは、「八尾で絵の本ひろば広げよ会」が参加の声掛けを積極的に行っていたが、開催内容がわかる物がなかったことから、「つどい」でギャラリート

- ・ ークの開催ちらしを作成したことで、声を掛けやすくなり、参加者増加につながった。
- ・ 9月に展示会をされる方が来場されつながり、つどい井戸端会議に参加されている。
- ・ 現場で映像機器の不具合が発生し、FM ちゃおに相談し器械を拝借支援いただいた。
- ・ 以上から、3者協働によるコーディネート支援をさせていただくことが出来た。

(2) 先進的な取り組み事例の収集

■ NPO の世代交代～事業承継の事例から考える (NPO 法人セイエン代表理事)

- ・ 吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」で開催された「NPO の世代交代～事業承継の事例から考える」に参加した。承継と継承の違い、世代交代や事業承継は全国的な社会問題であること、早めの準備と外部相談が必要であることを学んだ
- ・ 組織面では NPO 法人は全国で累計約 74,000 法人が設立され約 24,000 法人が解散した。NPO 法人の平均寿命は約 10.7 年 (2019 年までに解散した法人数から) である。組織の選択肢として「継続 (事業承継・世代交代)」「合併／分離・独立／事業譲渡等」「解散 (自主解散・破産・認証取消) がある。
- ・ 人財面では仕事・働き方の問題解消または満足度を高めるために考えている取り組みとして「非営利活動」の回答がコロナ禍前とコロナ禍後、回答割合が非常に上がっている。NPO 法人対象にスタッフがいる年齢層の回答として 2016 年に比べ 2021 年は 20 代・30 代のスタッフがいる回答割合が大きく増加している。
- ・ 役職を担う人財課題として、NPO 法人の代表者・副代表者には制度上福利厚生が乏しく、退職金も該当する退職金共済がないという課題がある。世代交代を進めるためには代表者・副代表者を担いやすいように、制度上の改善提言を行う必要がある。
- ・ 社会課題の解決に向けての NPO の役割・存在意義を発揮するためには、21 世紀型の社会の変化を組み入れる必要がある。労働面においても「デジタル技術も活用しながら、個人が社会課題の解決のために自ら労働 (知的貢献が基本) を提供して、みんなで共有する社会 (労働の原点に帰る)」であることを受け入れて事業承継につなげて行く。

■ 大阪ええまちプロジェクト大交流会「基調講演」「分科会」「交流タイム」

- ・ 基調講演【「社会疫学」からみる地域のつながり・支え合い】に参加。社会疫学や公衆衛生の観点から健やかに暮らし続けるため、地域とのつながりづくりが健康や寿命に与える影響をお聴きした (統計から地域活動へ参加していると健康寿命が延びる結果がある。病気や物忘れを否定せず、自分らしく年齢を重ねていく「ヘルシーエイジング」の考え方の推奨など)。
- ・ 「分科会」「交流タイム」では、先進的な市民活動団体に携わる方々から活動や話をお聴きしながら、交流を図り顔見知りの関係に努めた。

2.2. 「つどい」の管理運営業務

2.2.1. 管理運営の時間帯等

■開館日数 259 日

■開館日時

水曜日～日曜日：10 時～18 時 (左記曜日が祝日の際も開館時間は同じ)

■休館日

月曜日・火曜日

年末年始（12月29日から翌年1月3日までの6日間）
市長が特に必要と認める日

2.2.2. 管理運營業務の内容

(ア) 登録団体の募集・登録・廃止及び登録団体との連絡に関わる業務

2024（令和6）年3月末で265団体 ▲9（前年度：274団体）

登録団体：6団体、登録廃止：15団体

登録理由：八尾市市民活動支援基金事業助成金の申請により登録（3団体）

団体立上げによる登録（2団体）

つどいを知り登録（1団体）

登録廃止：コロナ禍等による活動休止による廃止（3団体）、

高齢化等に伴う団体の解散（1団体）

代表者の仕事の都合により解散（1団体）

つどいを利用されていない団体、SNSやチラシ等の発信がなく活動状況が

分からない団体（計129団体）を対象に委託元が実施するアンケート調査の

告知と現在の登録情報の確認を行い、登録廃止の申請があった（10団体）。

「つどいホームページ」の「つどい登録団体紹介」への写真掲載の依頼を再実施。

(イ) メールボックスの利用団体の募集・受付・廃止及び貸出等の管理業務

メールボックス利用団体数：19団体 +6（前年度：13団体）

※ 増加理由：メールボックス利用申請時にA3用紙まで保管出来る引出の貸出を引き続き実施し印刷時の利用が増えた。部屋利用で使用する物品保管での貸出もある。

(ウ) 会議室及び備品（印刷機、コピー機等）の貸出等の管理・保守業務

■ 会議室の貸出等管理・保守業務

各会議室利用団体数

会議室（大）：206団体 +1（前年度：205団体）

印刷室：197団体 +28（前年度：169団体）

曜日別の利用状況

会議室（大）：水曜日＞木曜日＝土曜日＞日曜日＞金曜日

印刷室：木曜日＞水曜日＞土曜日＞金曜日＞日曜日

■ 備品の貸出等の管理・保守業務

各備品等利用団体数

印刷機：184団体 +22（前年度：162団体）

紙折り機：17団体 ▲3（前年度：20団体）

その他：72団体 ▲7（前年度：79団体）

※その他＝裁断機、ラミネーター、コピー機、パソコン

(エ) 印刷機及びコピー機使用料の徴収・提出業務

使用料徴収額 印刷機：¥89,205-（前年度：¥71,175-）

コピー機：¥7,840-（前年度：¥1,750-）

(オ) 各団体のチラシ、ポスター等掲示物の受付・掲示業務

郵便物・登録団体のちらし・ポスター等持込み件数：652件 +6（前年度：646件）
館外配架物の配架部数：2,288部 +127（前年度：2,161件）
館外配架物の配架完了したチラシ・情報紙等：173種 ▲7（前年度：180種）

(カ) 「つどい」の備品管理業務

印刷機メンテナンス：4月及び10月に実施（赤色印刷不能により使用不可とした）
備品から消耗品の変更により、10点が備品管理対象外となった。

(キ) その他、「つどい」の管理運営のため必要な業務

■ 来館者数

年間来館者数 2,798人 +42（前年度：2,756人）

月平均来館者数 233.17人 +3.5（前年度：229.67人）

曜日別の利用状況：水曜日＞木曜日＞日曜日＞土曜日＞金曜日

上記以外は、別冊資料編を参照

2.3. 組織体制

■ 業務遂行の体制

中間支援センターとしての業務の企画・実施・評価及び「つどい」管理・運営に支障のない組織体制を整えた。勤務体制は、シフトを組み1名以上の体制で常駐。

業務責任者

新福泰雅（下記の業務担当者も兼ねる）

業務担当者

管理担当：小林永遠・鮫島彬寛（～12月）・宮下明莉（～8月）・武田悠（10月～）

事業担当：小林永遠・鮫島彬寛（～12月）・宮下明莉（～8月）・武田悠（10月～）

連携担当：小林永遠 ※ 理事長 西田裕は、全体の監督

※ 鮫島氏は1月から就職活動により長期休職。宮下氏は8月退職。

ボランティア

管理担当・事業担当：長谷川美陽（3月～9月）

ボランティア希望者（学生：1名）の面接対応

■ 今後の運営体制

- ・ 業務委託運営団体の理事会において、理事長と業務責任者(副理事長)は「つどい」の運営において一步距離を置くことになった。次期業務責任者候補であるフルタイムスタッフが中心として「つどい」の運営が出来るように移行した。雇用すべき人材づくりを探し出す任務については、フルタイムスタッフへ移譲することになった。

■ 今後の雇用手続きについて（次期業務責任候補者へ権限移譲）

- ・ アルバイトをされたい方は、概ね3ヶ月間を目途に有償ボランティアとして携わっていただき、雇用までの試用期間として定めて来た。その後、業務責任者の専決事項としてアルバイトをされたい方と雇入通知書を取交し、雇用を行って来た。9月からはアルバイトをされたい方は、業務委託運営団体の理事会で雇用について諮る事になり、業務責

任者の専決事項ではなくなった。

- ・ 雇用すべき人財づくりを探し出す任務は、フルタイムスタッフへ移譲した。次期業務責任者候補であるフルタイムスタッフが雇用すべき人財を探し出し、フルタイムスタッフが雇用について理事会へ諮ることになった。

■ 開館準備と閉館準備をボランティアから労働の扱いに変更

- ・ これまで開館前の準備業務と閉館後の片付け業務は、勤務時間に入れず無償ボランティアとして対応いただいた。勤務かボランティアか曖昧だと理解を示してもらうことが難しくなり、新しくアルバイトで携わる方々から疑問の声の頻度が増えていた。
- ・ 業務責任者とスタッフで話し合いを行い、次の業務責任候補者が新しいアルバイトスタッフの雇用を推薦するにあたって、人財確保がしやすい様に、開館前の準備業務と閉館後の片付け業務も勤務時間に取り入れることにした。
- ・ 従来の昼休み(1時間)に加え、15分の休憩を2回設けることで(合計30分の休憩を追加)、一日の労働時間の追加はせずに、メリハリのある働き方に寄与できるように改善を図った。来月4月より実施する。

■ 移転対応も見据えた対応（一步距離を置く運営を目指す一環として）

- ・ 2026(令和8)年度に施設が移転する可能性が高まったことによる物品整理を提案。
- ・ フルタイムスタッフへの権限移譲による給与の見直しを提案(理事長に対して協議)。

2.4. 業務報告及び評価（マネジメントサイクル）

■ 行政評価・運営評価に関する必要資料作成・説明協力

- ・ 行政評価・運営評価に関する必要資料作成・説明協力は、『「つどい」を介して連携につながった相談対応等』と『委託元との「つどい業務」に関する話し合い・協議』について対応を行った。

■ マネジメントサイクル

- ・ 校区まちづくり協議会における活動支援については、仕様書2.における3目（対話の場の創出支援・多様な主体の連携支援・活動効果の検証支援）に分けてまとめている。
- ・ 下表に「仕様書2.活動支援（3目）」と「仕様書（中間支援業務等）」の関係をまとめた。

「共創と共生の地域づくり」の推進

- ★ まちづくり目標5「つながりを創り育て自分らしさを大切にしようまち」
- ★ まちづくり目標6「みんなの力でともにつくる持続可能なまち」
- ★ 施策30「地域のまちづくり支援・市民活動の推進」

対象者別の支援		仕様書 5. (1) 中間支援業務								7.業務報告及び評価		
		①		②				③		(1)	(2)	(3)
		ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ			
活動支援 まち協	1目：創出	▲		▲		▲	●	●	▲		▲	
	2目：連携	▲	●	▲		●		●	▲		▲	
	3目：検証	▲		▲	●	▲		▲	▲		▲	
活動支援 以外の協	個人及び事業者や大学等	●	●	▲	▲		●	●	▲			
	市民活動団体	●	●	▲		▲	●	●	▲		●	
	市関係部署及び関係団体	▲	▲	▲			▲	▲	▲			●

※5. (2)「つどい」の管理運営業務は除く。

凡例：仕様書2.「業務の趣旨 校区まちづくり協議会の活動支援（3目）」の項目

1目：対話の場の創出支援

地域の課題解決や魅力向上に向けて、地域住民等が協力してアイデアを創出・実践する場として設立された校区まちづくり協議会に対して、だれでも参加できる開かれた場づくりを支援する。

2目：多様な主体の連携支援

これまで地域のまちづくりに関わる機会が無かった市民や様々な知識やアイデア等を持つあらゆる主体が対話の場へ参加できるよう、校区まちづくり協議会が行う情報発信を支援するとともに、多様な主体による社会貢献活動の情報を提供する。

3目：活動効果の検証支援

校区まちづくり協議会をはじめとする多様な主体が地域課題の解決のために実践した活動の効果を検証し、地域の活動全体を見渡した振り返りを支援する。

凡例：仕様書5.「業務内容（1）中間支援業務」の項目

凡例	●：大いに関連がある
	▲：関連がある

①：情報収集・情報提供

①ア：多様な主体による社会貢献活動に関する情報収集

①イ：多様な主体による社会貢献活動に関する情報の提供

②：社会貢献活動等の支援業務

②ア：社会貢献活動に関する相談

②イ：校区まちづくり協議会活動の効果検証支援

②ウ：社会貢献活動に係るスキルアップの支援

②エ：社会貢献活動への参加支援業務

③：多様な主体による連携・協力促進業務

③ア：連携・協力のコーディネート

③イ：先進的な取組事例の収集

凡例：仕様書7.「業務報告及び評価（マネジメントサイクル）」の項目

(1)：業務実施報告書の作成・提出 (2)：アンケートの実施の現状把握及びコーディネートまたは支援後の状況把握

(3)：行政評価や運営評価実施の必要資料の作成や説明協力

「つどい」と「まち協」の協働整理シート

記載例	校区まち協	協働相手		時期	協働の手法	概要		実施結果
		出張所等	まち協 その他					
		-	福祉	12月	ワークショップ支援	〇〇(株)がファシリで〇〇地区福祉委員会役員を対象としたワークショップを実施。各テーブルでのファシリをつどいスタッフ〇〇人で補助する	各役員が意見を述べるだけでなく、主体的に地域の課題を解決に導く手法の検討にまで踏み込んだ。	
9	八尾小学校区まちづくり協議会	〇		5月～	Instagram開設支援	まちづくり協議会のSNSアカウントを作成するにあたって、開設から運営までのレクチャーとアドバイスを実施。つどいにてInstagram担当の方1名にお伝えして、他の実行委員メンバーに伝えていただいた。	レクチャーとアドバイスを参考にされながら計2回の実行委員会での議論を経て無事開設が完了した。また、7/2開催の「納涼の夕べ」でイベント来場者向けに広報することが出来た。	
18	山本小学校区まちづくり協議会	〇	山本小学校、上之島中学校PTA	3月	小中学生向けワークショップ支援	小中学生からの要求実現として、市長との対談の場を設けるにあたり、地域課題について考えるワークショップを実施。つどいとしては、ワークショップのファシリテーションとして1名が参加。進行の補助としてグラフィックレコーディングを提案し、依頼した。	小学生5名、中学10名、高校生1名が参加され、アイスブレイクから開始し、つどいスタッフと子ども達だけの空間を作ったことで、リラックスした状態で話すことが出来たと感想をいただいた(終了後、保護者からの御礼取り)。また、高校生の1名には進行の補助役を一部担っていただき、円滑に意見収集と課題の追究と、ファシリテーションの経験を経験していただくことが出来た。	
20	高妻小学校区まちづくり協議会	〇		2月	グラフィックレコーディングの提案とコーディネート支援	まちづくり協議会主催の中学校2年生を対象とした防災教室を高妻中学校と協働で開催された。防災教室は避難所運営ゲームHUGの体験と外部講師からの避難所開設についての講演の2部制。つどいとしては振り返りの機会作りとそこのための新しい手法の提案としてグラフィックレコーディングをされている方を紹介した。また、避難所運営ゲームHUGの体験学習の進行方法について事前の打合せから参加し、コーディネートを行った。	避難所運営ゲームHUGに関しては、まち協役員のみで進行することが出来、中学生からの感想にも「防災について深く考える良い機会になった。」「自身も運営する側、頼られる側であることが分かった。」等、地域活動や防災について主体的な言葉を聞き取ることが出来た。また、グラフィックレコーディングについても、まち協や学校両方から好評いただき、現在は縮小した物を学校に提示し、校区集会所にもコピーを掲示することで活用していくことになったとの事。	
24	瑞川東小学校区まちづくり協議会	〇	つどい登録団体	6月	広報と連携支援	今年度から広報部会としてホームページ作成委員会を月に1回開催されており、その際にお手伝い先を探されている方がおられたため、6月18日に開催された広報部会につどい登録団体の方と訪問し、顔つなぎを実施した。	相談者と会長とお話されて、月に一回、相談者が集会所を団体としてお借りする形でオンライン教室を開催し、その教室内で広報部会が出た課題や要望についての支援を行えるようして連携していくことが決まった。	
26	西山本小学校区まちづくり協議会	〇	つどい登録団体	昨年度3月～7月	イベント出席からの協働相手としての顔つなぎ	子ども向けのイベントを開催していくにあたり、校区内で子どもの健全育成の分野で活動されている団体とつながり、協働していきたいとお声をお聞きして、昨年度3月19日に開催された健康とまち歩きをテーマにしたイベントに該当するつどい登録団体計3団体の方と訪問し、顔つなぎを実施。	7月に開催予定のサマーフェスタに照準を合わせて連携を取っておられたが、団体の元々の活動とスケジュールが合わず今年度に關しては実現には至らなかった。しかし、広報先としては今年度から協力していくとのこと。	

★校区まちづくり協議会以外の活動支援（一部まち協を含む）及び業務報告及び評価

○ つどいを介して開催した「和ろうそくは、つなぐ」展示会&ギャラリートーク(7月)

7月1日(土)~7月14日(金)までプリズムホール1階「オープンスペース」でつどいを介して連携実施した内容を、下記のPDCAサイクル表にまとめた。

まち協以外の活動支援			
【市民活動団体及び市の関係部署及び関係団体】			
項目	つどいを介して開催した「和ろうそくは、つなぐ」展示会&ギャラリートーク		
	役割分担(主体性・和ろうそくを通じた、中間支援)	つなげる・連携による新しい試み	相乗効果(来場者発掘含む)
Plan	昨年11月に「八尾で絵の本ひろば広げよ会」が「和ろうそくは、つなぐ」お話を開催。和ろうそくが出来るまでのプロセス・過程がわかる図解資料を「つどい」が提供した事で書籍提供が促進。		
	3月に「プリズム運営ネットワーク会議」に「つどい」が参加した際に「和ろうそくは、つなぐ」の図解資料を提供した際に、プリズムホールから「プリズムアート&シアター・プロジェクト」への出展依頼があった。4月に出展期間が定まり、7月に実施することが決まった。		
	お話を開催したつどい登録団体「八尾で絵の本ひろば広げよ会」と会場提供先の「プリズムホール」との連携を図る機会として、実施計画(案)を基に、6月17日(土)に3者で打合せを実施。実施計画は6回更新を行い実施計画の改善を図った。		
Do	役割分担として、展示物品の準備・設営及び展示開催中の運営・書籍及び和ろうそくの販売・ギャラリートーク参加代の徴収・会場撤収を「八尾で絵の本ひろば広げよ会」が主体的に担われた。代表者は有給休暇を活用し会場で立会うよう積極的に携わられた。	当初、実施計画に「ギャラリートーク」の開催はなかった。著者の大西暢夫氏が岐阜県から駆け付けることがわかり「八尾で絵の本ひろば広げよ会」の提案で実施に踏み切った。開催当日は、大ホール等で来場者が多く来られないことがわかり開催が出来た。	「八尾で絵の本ひろば広げよ会」の代表者を訪ねて、展示会に来られた方も多かった。つどい登録団体「八尾マジッククラブ」も同様。
	大西暢夫さんは、和ろうそくで使用する原材料の行方を現地まで追いかけて、次は何に使用されるのかその行方を突き詰めた話を実施。職人同士は遠方であるため、つながりが少なく、各原材料の行方がわかり無駄なく循環しつながっている事を参加者に啓発した。	会場隣の店舗「ターコイズブルー」と連携する機会として、ギャラリートークの参加代と別途「ターコイズブルー」でワンドリンクを注文してもらい、参加者に粗方1,000円程度の受益者負担を実施。	つどい登録団体「八尾で絵の本ひろば広げよ会」がギャラリートークの広報を行われたが、開催知らせがなかったため、「つどい」で作成支援を行った。積極的な広報により、来場された市民・教育委員会等と参加をいただいた。
Check	大西暢夫さんは、原材料の行方から無駄なく循環することを啓発する中間支援・つなぎ役である。地産地消として原材料が近くで調達出来た時代は、人とのつながりや顔もわかる関係だったと推測できた。原材料が無駄なく循環する使い方だとわかっていたと推測できた。現在は遠方から調達するため顔もつながりもなくなり、原材料が無駄なく循環していることもわからなくなったと推測できた。	展示会場である1階のオープンスペースは、読み聞かせを開催したことはあったが、ギャラリートークとしてサロンの場を設けたことは初めての試みとなった。	9月に同会場で展示会をされるデザイナー・イラストレーターの平井陽子さんとつながった。ギャラリートーク終了後に、平井陽子さんの作品を見てもらいながら、大西暢夫さんをご紹介・顔合せされ、つながる機会となった。
		隣の店舗「ターコイズブルー」とも連携を図った取り組みも初めての試みとなった。ドリンクを楽しみながら、店舗の売上に貢献する事が出来た。	プリズムホールでは、近畿大学での講義を受け持っており、ギャラリートーク開催時に館長と学生15名が見学に参加。一時は、主催者含めて総勢40名の参加になった。

まち協以外の活動支援	
・ 【市民活動団体及び市の関係部署及び関係団体】	
項目	つどいを介して開催した「和ろうそくは、つなぐ」展示会&ギャラリートーク
Action	<ul style="list-style-type: none"> ギャラリートークの開催広報を行う際に、役割分担として開催ちらしの作成が決まっていなかった。そのため「つどい」が急遽、開催ちらしの作成支援を行った。今後、同様な活動を実施する際に実施計画に盛り込むよう改善を図る。 DVD プレーヤーと DVD の相性が悪く、再生後 30 秒前後で映像が止まってしまったため、プリズムホールから貸出いただいたモニターを活用出来ず、和ろうそくの制作映像があまり上映する機会が出来なかった。DVD プレーヤーとモニターを接続する音声・映像端子ケーブルと HDMI ケーブルの変換器が電気量販店で販売されていなかった。急遽、FM ちゃおに問合せし変換器を拝借した。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 「和ろうそくは、つなぐ」は昨年 11 月で取組みが終わっていたが、継続して展示会&ギャラリートークとして取り組むことが出来た。日本のものづくり文化・歴史を和ろうそくがつないでいる点、すべては命につながっている点といった共通認識を啓発することが出来た。 連携による新しい取組みとして、プリズムホール 1 階オープンスペースを使って初めてギャラリートークを開催することが出来た。また開催時における会場隣の店舗とつながり連携を広げることが出来た。 ギャラリートークは参加者から徴収出来た(ご招待 4 名除く)。書籍及び和ろうそくの販売できた(「八尾で絵の本ひろば広げよ会」会計で実施)。 原材料の行方を突き止めたことで、無駄なく循環しつながっていたことが今回のギャラリートークで啓発することが出来た。つながっていることを意識するには、全てに命がありひとつにつながっていることを意識することで、つないで行く意識が芽生えることを啓発することが出来た。 中間支援は人の意識といった目に見えないものを扱う分、事業実施からすぐには気付かないもしくはあらわれない効果や意味を実感するのに、何年も要することがある。八尾を好きになる気持ちや八尾のまちに愛着を持つようになるなど、また現在の市民活動を始めたきっかけなど、後々になって、その効果や意味が「つどい」での支援やつながりが始まりだったことに気付き、実感してもらうことに、とても時間を要することがある。今回の取組みも後々にそれに気付く機会になれば、長期視点で見るとなった。 そのような、市民活動の世界や八尾の地域社会と交わりながら、つながる嬉しさや喜びを味わってもらう機能や役割が「つどい」といった中間支援(つなぎ役)ではないかと、つどい登録団体「八尾で絵の本ひろば広げよ会」からのフィードバックをもらい気付いた。 「つどい」といった中間支援にしかできない、地域資源を集め連携・協働につなげ、地域活性化と言った公益につなげる「コーディネート支援」に寄与出来ればと気付いた。 今回の取組みは、つどい登録団体が喜んで積極的に開催を担っていただいた。このような市民活動団体が「つどい」を支えてくださり、「つどい」もこのような団体をご支援しお互いが助け合いで、20 年近く支えてくれたと実感を持つことが出来た。また、上掲での機能や役割を育てて来たのは、「つどい登録団体」と共に歩み育てて来たこと、寄与されて来たことに気付く。

○ ポスティング実施による広報先及び対象者の拡大

まち協以外の活動支援		
【市民活動団体及び市の関係部署及び関係団体】		
項目	市民活動団体の行事開催ちらしの広報先及び対象者の拡大(ポスティングの実施)	
	都塚北町会への実施(一部、説明による手渡し)	都塚南町会への拡大実施と計画の作成(実施及び検証)
Plan	高美町5丁目町会長から都塚北町会長をご紹介いただいた。 6月に都塚北町会長へご挨拶に都塚北町会集会所に訪問し、行事開催ちらしの配架依頼を行い、実施することが出来た。 9月に市民活動団体の紹介パンフレット等の回覧もしくは全戸配布を依頼したが、非営利活動でも費用を徴収する教室のパンフレットについては、営利活動の教室との違いを明確に説明や線引きがしにくいことから、難しいと回答があった(行事開催ちらしは回覧をしていただいた)。そのため、町会に頼らず、原点に立ち返りポスティングを行うことを計画した。	都塚南町会は、10月初旬に地区自治振興委員長を通じて、町会長にポスティングの実施のお知らせと共有を図った。今後は、毎回ポスティングをする際も共有は不要となり、ポスティングにおいて苦情や問合せがあった際は町会長が対応いただけることになった。
	ポスティングを計画する事まで踏み込んだのは、都塚北町会(都塚北1丁目・2丁目)の人口の内、20代~30代が全体の39.6%(306人)、4才以下が23.5%(182人)と子育て世帯が顕著に多い町会であること、回覧等依頼を行った子どもの健全育成分野の行事開催場所が自転車移動できる範囲である事から、新しい対象者である子育て世帯に子どもの健全育成に関する行事開催情報を提供する意義があることから計画・実施を行うこととした。	子育て世代と4才以下の子どもという新しい対象者が都塚南町会へも子どもの健全育成に取り組む団体の行事開催ちらし等の情報提供を行う。そのための実施計画を作成。継続の必要性や取り組み内容が妥当であるか判断するために効果検証計画も作成。
Do	近隣で行事を開催するつどい登録団体2団体(茶吉庵で開催する「おはなしばすけっと」及びアクトランドYAOで開催する「モンテソーリ教室」)にお声掛けし、承諾いただき協働でポスティングを行う事になった。	10月18日に3団体協力により5名が参加し、ポスティングを実施。
	1団体は関係者が町会内にお住まいであったことから、今年の春にポスティングを行った。しかし参加者増加には効果が低いことが分かったため、当日現地で玄関先やお庭に居る場合はお声がけをして説明をし手渡しすることも現地で判断して行った。それ以外はポスティングを実施	10月18日は、173世帯にポスティングを行い、別途2世帯には手渡しを実施した。
Check	9月20日に第1回を実施。 165世帯にポスティングを行い、手渡し9世帯(ポスティングと重複2世帯)の合計172世帯に実施した。	9月は14時半から開始したことで、下校等でお迎えから帰ってくる保護者へ手渡しが出来たが、今回は1時間繰り上げて実施したことで、下校時間よりも早く実施したことで、人と会う事がほとんどなかった。気温が上昇したことで出歩く方が少なかった。
	園児・児童のお迎えで歩いてきた2世帯と玄関先やお庭に居た7世帯、合計9世帯へ説明及び手渡しを行った。	
Action	手渡したことで主催者・行事内容等、印象に残ってもらえた。	開始時間を14時半から実施を戻す方が良い。
	14時半~16時15分まで実施したため、園児や児童のお迎えの時間が重なり、手渡しが出来た。	
Action	次回9月27日に2回目を実施するが、今後も近隣での行事開催があれば、引き続きポスティングや手渡しを行い、市民活動団体行事やポスティングの認知を広げ、関係性も深めて行ける可能性がある。	14時半~15時45分まで実施し、公園で遊んでいた園児と保護者、知り合いの方とゆっくりとお話・説明が出来た。
	ポスティングといった小さなことでも、地道なことでも、チームになってこれからも取り組み・協働したいと「つどい登録団体」から意見があり、ポスティング先の拡大・継続を検討する。	都塚南町会は既存の二俣墓地・東弓削墓地を取り囲む街区であるため、道が基盤の目ではないため、各世帯にポスティングをしたか確認がしにくい。今後もエリアを分けて2グループで実施する。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ポスティングでは参加者増加の効果が低いため、わずかではあるが対面によるご挨拶及び説明と行事開催ちらし等を手渡しすることが出来た。そのことで、ポスティングや手渡しによる市民活動団体の行事の認知や参加促進の一助になる可能性がある。 今後も継続して行う事で、情報提供が定着する可能性がある。 近隣の開催場所を知らない方も居たため、開催場所の認知にもつながった。 協働で共にポスティングをしていただいたつどい登録団体へ新しい広報の支援が出来た。 行事開催時に取材等で伺い、ポスティング等を機会に参加された方がいらしたか簡単な検証を行いたい。 	

○「つどい」を介して連携した広報支援(ポスティング)による効果検証(その1)

まち協以外の活動支援		
【市民活動団体及び市の関係部署及び関係団体】		
項目	「つどい」を介して連携した広報支援(ポスティング)による効果検証	
	茶吉庵プロジェクト「Chi Haru 個展 Trash」&「過現未-カゲンライ-」	茶吉庵プロジェクト 映画「ともる」上映会(1月20日開催：有料)
Plan	茶吉庵プロジェクトから「Chi Haru 個展 Trash」&「過現未-カゲンライ-」のポスティング依頼があった。 ポスティングの対象を都塚南町会の173世帯を計画	茶吉庵プロジェクトから【映画「ともる」上映会】のポスティング依頼があった。 ポスティングの対象を都塚北町会及び都塚南町会の391世帯を計画
Do	10月18日に3団体協力により5名が参加。 ポスティングを173世帯実施(別途手渡し：2)	11月29日に2団体協力により2名が参加。 ポスティングを391世帯実施(別途手渡し：5)
Check	ポスティングした個展「過現未-カゲンライ-」が茶吉庵で開催した個展の中で過去2番目の来場者(180名)になった。 これまでの来場者とは層が異なり、ママ友、親子での参加があり、来場者の世代も若返った。	アンケートを実施され、154名の来場者の内73名が回答(回答率：47.4%)。「ポスティングによる来場」と回答があったのは1名(1.36%)であった。
	主催者がポスティング効果を実感されたことで、別途11月22日(水)に主催の「茶吉庵プロジェクト」自らが都塚北町会と都塚南町会の391世帯に「クリスマスアートマルシェ展2023」のポスティングを6名で実施。「つどい」もポスティングの応援で支援を実施。	主催者からは『アンケート回答率が100%であった場合は、「ポスティングの来場」の回答は2名になる。ポスティングは1,000枚配布して1人参加と言うのが一般的。その中で約400世帯の配布で2名来場したと仮定すれば、200枚配布して1人参加となるので、一般的なポスティングより5倍の効果がある。情報の信用度が高いのではないか。』とお聞きした。
Action	主催者から「Instagramに投稿してもインスタ映えする写真を見れば満足され、会場まで来られない。ポスティングの方が来場効果を感じる。」とお聞きした。	主催者からは「新興住宅地で、コミュニケーションを取りながら、定期・不定期に問わすある程度の頻度で提供した情報には信頼度は高くないのではないかとと思う。」とお聞きした。
	波及効果があらわれ主催者の主体性につながった。さらに波及効果が出るよう改善する。 手渡しの際に茶吉庵を知っている方がおられ、認知もされていた。手渡しを通じてもっとニーズの聞き出しや情報収集を行い信用が得られるようにコミュニケーションを図る。	未就学児及び小学生及び保護者が求める情報を探る必要がある。 有料による行事開催であるのと、開催地がブリズムホールであり遠いことも難点だったため、来場にはつながりにくかったことから、もう少し近隣地の開催情報の提供を行いたい。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ポスティングの効果検証として、茶吉庵の個展会場に記帳出来るようにしているが、住所まで書いてもらう方は非常に少ないことから、ポスティングの効果を定量的に計ることが難しいことがわかった。 都塚北町会長から「封筒だと怪しまれるので、中身を見ないで捨てられるかもしれない。」と言うご意見をいただいた。封筒が無地であったので【「つどい」から皆様へ市民活動団体(つどい登録団体)からのお知らせ】といったタイトルを印刷し、怪しまれないように改善を図ったことでより、手に取ってもらうように改善が出来た。 新しい対象者へ広報をしたいと言う団体のニーズにマッチしたこともあり、延べ11団体が協力いただきたい。「2024年10月1日でつどい開設丸20年になるのでその恩返しをしたい。市民活動団体の支援が行き届かなかったのもあるので、お詫びとしても行いたい。」と気持ちを伝えたことで賛同していただいた。 行事開催ちらしの開催先は、都塚北町会及び都塚南町会がある曙川小学校区及び曙川東小学校区及び近隣の小学校区を想定していた。しかし曙川小学校区及び曙川東小学校区内で取組む市民活動団体が少ないこともあり、他の小学校区での行事開催のお知らせを行うことも視野に入れる。また「高安ドッジボールクラブ」の様に、駐車場がある会場で開催する際は、外環状線沿いの小学校区も対象校区として範囲を拡大して対応する。 	

○「つどい」を介して連携した広報支援(ポスティング)による効果検証(その2)

まち協以外の活動支援	
【市民活動団体及び市の関係部署及び関係団体】	
項目	「つどい」を介して連携した広報支援(ポスティング)による効果検証 高安ドッジボールクラブ「公式ドッジボール体験会」の参加者激増につながる
Plan	高安ドッジボールクラブから「公式ドッジボール体験会参加者募集」のポスティング依頼があった。 ポスティングの対象を都塚北町会及び都塚南町会の391世帯を計画
Do	2月29日に1団体の協力により、つどいスタッフを含めた2名が雨天の中、参加し実施。 ポスティングを391世帯実施(雨天のため手渡しなし)
Check	16名の初参加者につながった。 全体で実人数28名の初参加者の内、16名が曙川小学校区(10名)と曙川東小学校区(6名)の参加であった。
	上記16名の内、小学1年生が13名、小学2年生が1名、小学3年生が1名、小学4年生が1名であった。
	上記16名の内、1名は兄弟での参加であったので、15世帯の参加であることがわかった。 ポスティングによるマッチング率は3.83%と言う驚異的な数字になった。 (15世帯/391世帯=3.83%)
	主催者からは「昨年度は10名も初参加者はいなかった。今年度は悲鳴を上げるほどのたくさんの初参加者が来られ、とても活気があり盛況に開催が出来た。」とお聞きし、大変喜んでおられた。
	主催者が高安出張所から「八尾 高安山史跡散策マップ」及び高安中学校区まちづくり協議会製作「山ねきまっぷ」等を、参加者に配布を行った。その際に、高安山等の紹介を「つどい」からさせていただき、八尾を知り郷土愛を育むため、近隣を散策していただきたい旨をお伝えしたことで、保護者も含めて理解を示していただいた。都塚北町会及び都塚南町会は新興住宅地であり八尾市外から引っ越した方々が多く、八尾を知らない保護者が多いことから、このような情報も求めていることが良くわかった。
Action	4月からの新年度に合わせて何か新しいことを始めようと思っていた児童や保護者の方にとって、「公式ドッジボール体験会」がお試しとして参加するニーズにマッチングした。
	100枚ポスティングをして、1名の参加があれば、効果が高かったと言われるポスティングにおいて、100世帯配付して3世帯から4世帯が参加をされたことは、驚異的な結果である。
	今後もニーズとタイミングにマッチする様、改善を図りたい。そのため情報収集を行う必要がある。子どもの健全育成の情報以外に、未就学児や児童等に対して八尾に関する情報も求めているので提供を図っていくよう改善を行う。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 他団体のポスティングを行う場合も協力する方が1名あらわれ、継続してもらっている。 結果的には「茶吉庵プロジェクト」を通じて「やおうえるかむ commons 推進会議」の開催ちらしを2回に渡ってポスティングを行い、「やおうえるかむ commons 推進会議」と連携するきっかけとなった。 ニーズとタイミングがマッチングすると参加者増加として反響があらわれた。児童・未就学児のためであれば八尾に関する情報も求めていることもわかり、新たなニーズを知る事が出来た。

2.5. 「つどい」を介して連携につながった相談対応等

今年度、相談対応後にマッチングした 30 件ならびに他の中間支援業務を通じて連携につながった件数(件)を下表に各活動主体別等にまとめた。相談対応後のマッチング後の連携としては、6 件が市民活動団体と最も多く、次いで 4 件は市民活動を行う個人、1 件は事業者であった。また、令和 3 (2021) 年度から連携の拡大が来ている等の相談対応 4 件の内、2 件が地域活動団体、1 件が行政、1 件は事業者と教育機関であった。相談業務以外の中間支援業務を通じて連携につながった件数は 1 件であった。合計 16 件の連携につながった。

- ※ マッチング：相談内容から「つどい」が「相談者」に団体や個人の連絡先等を紹介（以下、「紹介者」）し、その後、紹介者が相談者からの相談内容に応じてくれた場合とする。また、紹介者として「つどい」も含まれる。
- ※ 連携：マッチング後も、再度、同じもしくは同じような相談内容に紹介者が応じた場合をいう。また、マッチング後も、参画を継続して活動を行っているもしくは活動に定着化した相談内容も含む。連携には、紹介者としての「つどい」は含めなかったが、「つどい」を介して補完的な支援やコーディネート支援があったことから、今年度は連携にカウントをしている。相談者へ紹介した紹介団体が携わる事で相談案件が解決するような単発的な取り組みは、連携には該当しない。また、相談業務以外でも今後も連携の可能性のあるものは、連携にカウントする場合がある。

●市民

- ・ 相談 No. 2023-089

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
2/18	マッチング内容	ダンボールベッドやパーテーション、簡易トイレ等を製造しているマツダ紙工業（株）をご紹介。昨年の地震の時に被災地の支援でつながった現地の方が、今回の地震でも被災をされた。寄せ書きでも支援になるか被災者に尋ねると「お声がけは本当に心強く一番の支援はお声がけだと思っている。」と応えたことで、相談者は寄せ書きを思いつかれた。「つどい」もお声がけをいただき、つどいを含めて、つどい登録団体数名に寄せ書きに協力。2月4日に寄せ書きをまとめられ、LINEにて送付（インフラ復旧中のため郵送が困難）。被災者から励ましが力になり、泣きながら見られ、寄り添っていると思うだけで安心されたとコメントをいただいた。必ず復興しますとお言葉もいただいた。
	連携が出来た及び出来なかった理由	つどいもつどい登録団体も複数名で連携して寄せ書きを書いた。引き続き、相談者や「つどい」を介して連携する可能性がある。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (寄せ書きでの復興への思いを提供)

- ・ 相談 No. 2023-094

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
3/28	マッチング内容	メールにてつどい登録団体「八尾市アマチュア無線非常通信連絡会」を紹介（送信エラーにより、お電話にて紹介）。その後、相談者から紹介団体の代表と顔合わせを行い現在は活動に参加されているとご報告があった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	紹介団体に正式に所属され、定期的に活動をされていることから連携開始とする。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1名の活動資源が集まった。 (アマチュア無線非常通信活動への時間の提供)

・ 相談 No. 2023-101

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
3/28	マッチング内容	つどい登録団体「八尾手話サークル みどり」を紹介。連絡が取れないため、再度相談。取りまとめているつどい登録団体「八尾市ボランティア連絡会」の代表者に対応者から連絡を取り、相談者へ再度紹介。2月の定例会への参加を検討。
	連携が出来た及び出来なかった理由	相談者が継続して参加しているとご報告があった。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1名の活動資源が集まった。 (手話サークル活動への時間の提供)

・ 相談 No. 2023-112

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
2/18	マッチング内容	外国人の方との交流や支援を行っている団体と河内音頭や居合道等、外国人の方が興味を持ってくれそうな日本文化をテーマに活動している団体について、つどい登録団体から6団体を紹介した。環境保全の観点と相談者が考えておられた「一年の内、一日だけでも地球に優しくする日をつくりたい」という思いから「Happy Earthday Osaka」について情報提供を行った。正調河内音頭の踊り方が図解されている資料をつどい登録団体「八尾河内音頭まつり振興会」ホームページから資料提供を行った。
	連携が出来た及び出来なかった理由	「Happy Earthday Osaka」に当日ボランティアの方から、出演者枠に空きがあるかもしれないというお話をお聞きし、運営に携わっている大学生ボランティアの方に相談者をご紹介した。対応者を通じてLINE交換を行い、後日、相談者から大学生ボランティアでステージパフォーマンスの担当者の方とつながる事が出来た。「Happy Earthday Osaka」に出演することが出来た。来年度も何かしらの形で関わっていく意向をお聞きしたことから、連携の意思を確認した。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (イベント行事で出演が披露を行う場の提供)

●市民活動団体

・ 相談 No. 2023-012

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
4/28	マッチング内容	つどい登録団体の内、情報開示分を提供した。また、開示されていない団体は、別途先方の団体に尋ねて取り次ぐことになった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	つどい井戸端会議に参加した際に、つどい登録団体「日本ボーイスカウト大阪連盟八尾第7団」が町会へ回覧をまわしてもらいたいという話があり、相談者へ紹介。 相談者の団体が登録している「結ネット」に行事開催チラシを入力作成し、高美町5丁目町会に電子回覧をされた。 つどい登録団体「錬信会 八尾道場」のポスター・チラシを預かったので同様に相談者へ紹介し、同じ様に対応された。 「つどい」を介して、相談者の団体が登録している「結ネット」に行事開催チラシを入力作成し、高美町5丁目町会に電子回覧の実施が定着していることから、連携が出来ている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	2団体の活動資源が集まった。 (開催チラシと言う情報の提供、町会運営アプリ「結ネット」による電子回覧と言うノウハウ提供)

・ 相談 No. 2023-023

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
6/18	マッチング内容	相談者がweb作成や更新などお手伝いできる団体を紹介して欲しいと言う相談。相談者の団体活拠点が用和小学校区であることから、用和小学校区まちづくり協議会の活動に興味を持たれた。八尾市で取りまとめている「校区まちづくり協議会の情報発信について」を情報提供し、各校区まちづくり協議会のwebの作成状況を見ていただいた。 今年度から曙川東小まち協広報部会を立ち上げられホームページの制作委員会として月に1回活動されている。その際にアドバイスをしてくださる方を探していることを情報提供し曙川東小学校区まちづくり協議会の会長に電話にてご紹介。 対応者と相談者と広報部会にお邪魔して顔合わせを行った。相談者と会長とお話されて月に一回、相談者が集会所を団体としてお借りする形でオンライン教室を開催しその教室内で広報部会から出た課題や要望についての支援が行えるようして連携していくことが決まった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	継続して、オンライン教室を開催しその教室内で広報部会から出た課題や要望についての支援を行っている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (Web作成や更新と言うノウハウ提供、)

・ 相談 No. 2023-054

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
9/28	マッチング内容	都塚北町会の会長に回覧依頼を行った。文部科学省の後援があることから回覧の承諾をいただいた。後日(9月29日)郵送し、10月の町会回覧でまわしてもらう予定(20枚郵送)。
	連携が出来た及び出来なかった理由	来年度も行事を開催(大阪府後援)すること及び都塚北町会が子どもの健全育成の行事開催チラシの回覧とポスター掲示を行政の後援名義もあり快く協力いただけることから、連携の意思を確認した。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (ちらし回覧とポスター掲示と言う広報面での場の提供)

・ 相談 No. 2023-059

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
1/21	マッチング内容	つどい登録団体「CoderDojo 八尾」主催のプログラミング教室に参加するために開示可能な情報を提供。別件も兼ねて電話にて取次ぎも行った。「CoderDojo 八尾」に見学スクラッチ講師1名と児童デイスタッフ1名で見学に行き、紹介者となつたり、八尾廃校 SATOZUKURIBASE の参加にもつながった。児童デイの児童たちが上記の取組みに参加することも今後企画している。現在は「かかぼ」にも紹介者にプログラミング教室にお越しいただき、子ども達から好評だったため、2月か3月に月2回のペースで継続してプログラミングの講座をしてもらえるようになった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	継続して、プログラミング教室に参加しつなげたことで、相談者の団体主催のプログラミング教室にお越しいただき、好評により継続して講師として連携が取れるようになった。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (Web作成や更新と言うノウハウ提供)

・ 相談 No. 2023-075

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
2/29	マッチング内容	12月に「茶吉庵プロジェクト&やおうえるかむコムンズ推進会議」から選出いただき、つどいを含めて3名で都塚北町会及び都塚南町会(計391世帯)へポスティングを実施。 上映会当日は参加者へアンケート用紙の設問にどの広報媒体で来場されたかをお聞きする予定。「つどい」もしくは「ポスティング」もしくは「ちらし」等の回答欄を検討されると思われる。
	連携が出来た及び出来なかった理由	上映会当日のアンケートでは、154名の来場者の内73名が回答(回答率:47.4%)。「ポスティングによる来場」と回答があったのは1名(1.36%)であった。相談者からは『アンケート回答率が100%であった場合は、「ポスティングの来場」の回答は2名になる。 ポスティングは1,000枚配布して1人参加と言うのが一般的。その中で約400世帯の配布で2名来場したと仮定すれば、200枚配布して1人参加となるので、一般的なポスティングより5倍の効果がある。情報の信用度が高いのではないか。』とお聞きした。 新しく参加される方とつながる方法として共にポスティングによる連携を継続する意思を確認し、継続している。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (ポスティングによる時間提供と物品提供)

・ 相談 No. 2023-092

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
2/29	マッチング内容	イベント共催等での支援はしていないが、行事開催ちらしのポスティングによる広報支援について情報提供を行った。2月29日に都塚北町会及び都塚南町会へ行事開催ちらしの共にポスティングをつどい業務責任者と実施した。結果は、ポスティングを行った両小学校区から15世帯(16名)の参加があ、ポスティングによるマッチング率は3.83%と言う驚異的な数字になった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	つどい登録団体同士のつながり・交流の面は、ポスティングの際に他団体と連携したい意思も確認した(ポスティング後、近くの茶吉庵プロジェクトにご挨拶に訪問したことで意思確認をした)。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (ポスティングによる時間提供と物品提供)

●事業者

- ・ 相談 No.2023-018

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
6/11	マッチング内容	高齢者の方が元気になれるような企画を考えており活動経験が既にある団体として2団体をご紹介した。 つどい登録団体「犬の家 アッシュ・ヴィー」(ドッグセラピーを行っている団体)と片山心愛氏(昭和歌謡曲の歌手、踊り手として活動する高校1年生)を紹介した。 紹介者(片山氏)から無事にイベント出演する事が出来たとご報告があった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	引き続き、紹介者には何度か出演依頼を行っていることから、連携が開始したことを確認した。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (施設訪問先の出演披露による時間提供とノウハウ提供)

●相談業務以外での連携

- ・ 「和ろうそくは、つなぐ」展示会&ギャラリートークによる3者協働のコーディネート支援

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
6/17	マッチング内容	プリズムホールからのご依頼・提案により、つどい登録団体「八尾で絵の本ひろば広げよ会」と「プリズムホール」「つどい」の3者協働で実施。実施計画を作成し目的等の共有化や役割分担等を打合せた。
	連携が出来た及び出来なかった理由	著者が来館することになりギャラリートークも急遽、開催。会場横のカフェ・レストランとの連携も図り、ギャラリートークの参加費徴収とワンドリンクの注文も行い売上貢献を行った。カフェ・レストランとの行事開催による連携はプリズムホール自身も行ったことがなく初めての連携になった。 ギャラリートークでは、プリズムホールが大学の講義を受け持っていることから、近畿大学生15名も見学に参加など相乗効果もあった。 展示会・ギャラリートークの会場である1階オープンスペースでは、読み聞かせ以外では基本的に展示会の使用をしたことがなかったが、プリズムホールの理解もありギャラリートークを初めて実施した。連携によりパイロット的(試験的)な取り組みを行う事が出来た。 以上からつどいがコーディネート支援を通じて、連携が実現した。 今後も、河内木綿等の展示の際は、コーディネート支援の依頼等もあるかもしれない。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	2団体の活動資源が集まった。 (公共施設で展示する企画実現の場の提供) (市民活動団体の時間の提供とノウハウ提供)

●連携の継続確認【参考】

地域活動団体の連携拡大【参考】

- ・ 相談 No. 2023-030

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
7/6	マッチング内容	敬老祭を開催するので2団体を紹介。相談者と本件の出演依頼を担当されている方が来館。団体内で検討された結果、片山氏に依頼されることにされた。「つどい」から片山氏にご連絡して片山氏のご連絡先を担当の方にお伝えし、出演することが決まった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	相談 No.2021-030 の相談案件依頼、継続した相談を受け、対応し団体紹介をしマッチングしている。継続して各団体を披露する場として連携の拡大が出来ている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (行事での出演披露による時間提供)

- ・ 相談 No. 2023-121 の連携拡大【参考】

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
3/27	マッチング内容	漫画を描ける人として、つどいの非常勤スタッフでもある武田氏を紹介した。紹介者をつなぎ、小学生やその保護者向けに山本小学校区まちづくり協議会を紹介する漫画を作成することが出来たとご報告いただいた。
	連携が出来た及び出来なかった理由	過去にもマンガでまち協紹介を行っており、団体を紹介しており、今回は他の方で描く方を探しておられ補充として紹介をしている。継続していることから連携の拡大と読み替えることも出来る。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (行事での出演披露による時間提供とノウハウ提供)

行政の連携拡大【参考】

- ・ 相談 No. 2023-036 の連携拡大【参考】

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
10/15	マッチング内容	校区まちづくり協議会とコミスタ向けに SNS の研修を行うにあたり、内容のアドバイスと講師紹介を行った。対応者が個人として講師役を引き受けた。講師として Instagram については対応者が、写真の撮り方については向井氏(特定非営利活動法人 きょうと NPO センター)が担当し、10月27日、28日の2日間で開催した。
	連携が出来た及び出来なかった理由	過相談 No.2020-111 から始まったまち協を対象とするデジタル媒体の操作・使い方のレクチャーとして相談者から随時相談対応後、継続して講師を務めていることから、連携の拡大が出来ている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (講座の講師による時間提供とノウハウ提供)

事業者&教育機関の連携拡大【参考：命の授業】

・ 相談 No. 2023-057

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
10/4	マッチング内容	つどい登録団体「八尾の助産師の会」の代表者の連絡先をお伝えした。これまでに「いのちの授業」として行われていることをお伝えした。 紹介者より、相談者から連絡があり出前授業をお引き受けされたとのこと報告があった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	相談 No.2021-084、No.2021-093、No.2022-097、No.2022-100、と紹介して欲しい相談が3カ年度多方面から続いており、連携の拡大が出来ている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (学校訪問先の出前授業による時間提供とノウハウ提供)

2・6. 成果及び課題と改善点

■ 各中間支援業務における成果及び課題と改善点

● 情報収集・情報提供業務

- ・ 長年の情報収集及び発信情報・提供情報の蓄積により、つどいブログ・SNSの広報支援による情報発信の件数(昨年度97件→今年度117件)の増加につなげ、個別対応での情報提供として広報先の拡大や地域郷土資料としての提供・寄贈を本格実施した。
- ・ 広報先の拡大として、相談者の団体が登録している町会運営アプリ「結ネット」を活用して電子回覧を活用させていただき、高美町5丁目町会との電子回覧の連携につながった。また回覧・配布やポスター掲示依頼により都塚北町会との連携にもつながった。
- ・ 都塚北町会及び都塚南町会の両町会長のご理解により、両町会の住民を対象にポスティングの実施が出来た。そのことで各団体における個別対応として広報面での支援や新規の参加者拡大に寄与することが出来た。
- ・ 八尾市立図書館への地域郷土資料としての提供・寄贈による連携の継続により、これから新しく市民活動を始める方及び興味・関心のある方が、各種市民活動団体の情報紙や記念誌の閲覧から先行事例として情報収集を行う環境整備に寄与することが出来た。先人達が行って来た市民活動を蓄積したうえで新しく市民活動を始める機会の提供に寄与することが出来、八尾市立図書館からの提案と連携により本格的な実施が出来た。

● 社会貢献活動等の支援業務

- ・ 校区まちづくり協議会活動の効果検証支援においては、校区まちづくり協議会が「わがまち推進計画」の策定が完了し、3小学校区における効果検証を行うことが出来た。
- ・ SNS・リモートなどの手法のレクチャーは校区まちづくり協議会に留まらず、市民活動団体にもレクチャーが広がり、スキルアップの支援対象の拡大につながった。
- ・ 参加支援業務では、「つどい井戸端会議」の参加を機会に市民主体のまちづくりを意識した人財輩出につながった(校区まちづくり協議会や自主防災組織へ参画、孤独な子育てである親を癒す機会、放課後デイサービスの講師として活動先を拡大)。

- 多様な主体による連携・協力促進業務
 - ・ 連携・協働のコーディネートにおいては、「和ろうそくは、つなぐ」の展示を「プリズムホール」「八尾で絵の本ひろば広げよ会」「つどい」の協働により、協働を意識したコーディネート支援を行った。会場を「ギャラリートーク」と言うサロン機能を取り入れた試験実施が成功したことや会場隣のカフェ・レストランとの連携など、プリズムホールの協力、八尾市教育委員長の参加など、各主体への影響や展示開催の相乗効果につながった（以後、会場の1階オープンスペースはギャラリートーク等での使用頻度が増加）。
 - ・ 歴史ある地域資源の提供としては、廃校の跡地利用を行う高安中学校区まちづくり協議会に情報提供を通じて、廃校内にある「きんぱく博物館」へ写真展示物の常設につなげ、やり取りが少なかった高安中学校区まちづくり協議会とのコンタクトも図れた。
 - ・ 先進的な取り組み事例の収集ではNPOの世代交代として事業承継事例の収集を行った。他の収集では、スタッフも自ら基調講演を含む交流会に参加をし、学習を兼ねて事例収集や他市町村の市民活動団体等のつながりに赴き、スタッフの意識向上につながった。
 - ・ 前年度、取り組み事例先であった八尾市芸術文化振興審議会及び「やおうえるかむコモンズ推進会議」について、来年度、貴推進会議のアドバイザー就任により、より収集が行えるようになる。加えて、貴推進会議及び参画しているつどい登録団体「茶吉庵プロジェクト」とはポスティング実施により、事例収集から支援や連携へと発展した。

■ 管理運営業務における成果及び課題と改善点

- 登録団体の募集・登録・廃止及び登録団体との連絡に関わる業務
 - ・ 委託元が実施するアンケート調査の対象者であるつどい登録団体の活動情報の確認により10団体の廃止が発生したことで、前年度より9団体登録数が減少した。
- 会議室及び備品（印刷機、コピー機等）の貸出等の管理・保守業務
 - ・ 部屋並びに設備の利用状況は、前々年度に底を突き、上昇した前年度と比べ横ばいであった。5月にはコロナ感染症が第5類へ移行したことにより、従来の定員数に戻したが、利用増加にはならなかった。来館者数も同様に前年度と比べ横ばいであった。
 - ・ 前年度も含め、金曜日の会議室利用が他の曜日と比べ顕著に少なく、年間52週間の内、午前利用は3団体（稼働率約5.8%）、午後利用は13団体（稼働率25.0%）であることから、会議室利用を求める団体を見つけることで、マッチングを図り稼働率と来館者数向上を改善する必要がある。また金曜日のフリースペース利用が他の曜日に比べ少し多いのは、印刷機を利用して丁合作業・発送作業等でフリースペースを定期的に利用しているからである。印刷機利用は前年度より年間で22団体増加している。
 - ・ 2ヶ年度連続で金曜日の会議室利用が顕著に少ないことから、午前・午後の各区分で利用したい団体を探すことがひとつの方法である。しかし、利用のニーズが見当たらない場合は、夜間利用のニーズがあるかを調べ需要があれば、午前を閉館し午後と夜間に開館時間を試験的に変更して行うことも視野に入れることは出来る。ただし、午前に印刷機とフリースペースを利用する団体とも協議が必要になる。また、実費徴収を促す意味では無料で会議室の貸出を拡充して良いのかという考えもある。反対に対象者から対価を得られないことが多い市民活動団体にとって無料で会議室を貸出すのも支援の一環と言う考え方もある。
- 各団体のチラシ、ポスター等掲示物の受付・掲示業務

- ・ チラシ、ポスター等の掲示物の受付・掲示及び配架では、受付件数は前年度と比べ横ばい、館外配架は約 5.88%増でほぼ横ばいではあることから、この数年間で増加した伸びしろ分は十分に達することが出来たと考える。アナログ媒体の情報発信は定着した。
- ・ 伸びしろ分は十分に達したことから、今後、興味のない方にも閲覧いただく方法としてデジタル媒体、ポスティングと言った「プッシュ型広報」の実施をさらに拡充することが前年度よりもさらに必要になると思われる。

■ 組織体制の成果及び課題と改善点

- ・ 今後の運営体制及び雇用手続きについて転換を図り、理事長と業務責任者（副理事長）が業務運営から一步距離を置くことになり、フルタイムスタッフ（次期業務責任候補者）に権限を移譲した。
- ・ 新しい人財確保へ向けて、開設から 19 年半、スタッフに理解をしていただいた開館準備と閉館準備を、これまでのボランティア扱いから労働の扱いに考えを転換し変更した。デジタルの普及により白か黒かハッキリさせないとスタッフの対応が難しい状況になったためである。曖昧なボランティアは通じなくなって来ている。
- ・ 次世代へ業務の継承と中間支援の承継については、継承面では物品整理を行い、現在のつどい業務責任者が始末を始めた。権限移譲による給与見直しについて折り合いがつかない中でも、つどい業務責任者が理事長と協議を行って来た。過去の清算を始めた。
- ・ これらは全て来年 10 月 1 日に「つどい」開設丸 20 年を迎えるにあたり、転換を図るタイミングであること、それから 5 年以上前から世代交代を謳い進めて来た中で、人事も含めて人財の新陳代謝と「人づくり・人育て」をコンセプトにしたプロポーザル提案に基づき、日頃の運営を通じてひとつの集大成として実施を図って来た。

■ マネジメントサイクルからの成果及び課題と改善点

- ポスティング実施による広報先及び対象者の拡大とその支援の効果検証
- ・ ポスティングの対象者である都塚北町会及び都塚南町会の子育て世帯の保護者及び子ども達のニーズとタイミングがマッチングすると、「公式ドッジボール体験会」に初参加者として 15 世帯 16 名が参加された。マッチング率 3.83%（15 世帯／391 世帯）と驚異的なマッチング率になった。数値による定量化で検証を行う事が出来た。ポスティングの実施は、新規の参加者拡大や新しい属性（子育て世代・未就学児）の参加拡大に有効な方法として検証が出来、今後も必要があれば実施を継続していく。
- ・ 情報収集・情報提供業務として広報先の拡大として支援を行ったことで、初参加者の増加につながり、結果的には社会貢献活動等の支援業務として参加支援業務にもつながった。各業務がつながるのも情報収集の点から、的を絞った収集が必要であり、情報収集面での改善点でもある。ニーズとタイミングがマッチするような情報収集を行うことが必要である。
- ・ 都塚北町会や都塚南町会といった新興住宅地は八尾市外から八尾市内に引越しをされた世帯が多いことから、子ども達に向けて八尾に関する地域資源の情報（歴史・文化・自然等）を提供することが出来るように情報収集を行う。
- ・ 都塚北町会及び都塚南町会がある曙川小学校区及び曙川東小学校区の校区外で開催される行事開催も対象校区を広げて広報支援を行う。特に外環状線沿いの小学校区も対象校

区とするよう改善を図る。

- 協働が進むための共通認識づくりの提案・提供及び共通認識の必要性の啓発
- ・ プリズムホール1階オープンスペースで実施した展示会及びギャラリートーク「和ろうそくは、つなぐ」を通じて、すべて命につながっている共通認識から、物の大切さ、循環型社会であった日本の文化や環境について、和ろうそくの製作過程を通じて、共通認識やそれにまつわる内容で共感を示したことで、共通認識を持った協働による連携を実施することが出来た。また、連携のコーディネーターとして携わる事も出来た。
- ・ かつては共通認識を「シンボル」と言う言葉で表現した時期もあったが、皆がひとつになるための共通認識（シンボル）を構築することと、協働が生まれる共通認識を提示し、共通認識の必要性を啓発する時期が来ていると感じている。

■ 「つどい」を介して連携を通じた地域資源（成果及び課題と改善点）

16件の連携を活動資源の要素別にて集約（複数該当・次表参照）した上で、成果及び課題と改善点をまとめる。

- ・ 連携時に提供いただいた内容が、時間提供16件中10件だった。昨年度（7件）よりも件数が増加している。
- ・ 金銭提供は0件であり、昨年度に引き続き、資金調達の連携案件・事例を構築したい。
- ・ 物品提供は16件中2件であり、「つどい」を介して物品による補完的な支援である。
- ・ 場所提供は16件中2件であり、出演・広報・出展という物理的な場所の提供及び機会を提供する場の提供の両要素が含まれている。
- ・ 昨年度までその他に含まれていた「ノウハウ提供」を独立項目として分けた。ノウハウ提供は16件中8件あり、アプリでの広報提供、Web制作の提供が2件、出演者側として歌謡曲披露による提供、展示品の提供、マンガ制作の提供、Instagramの作成の提供、出前授業の提供であった。
- ・ その他は、寄せ書きによる震災復興の思いの提供、広報物（開催チラシ）の情報提供（広報物の提供により電子回覧が実現）だった。
- ・ 市民活動団体が従来から持っているノウハウ提供に加え、若年層や市民活動団体によるデジタル媒体・広報媒体の操作方法・使い方の提供も引き続きあった。Web制作の提供は、Web製作者側が団体支援としてまち協を支援するという連携につながった相談案件と、講師を探している側がWeb製作者とつながり講座実現による連携につながった相談案件は、共に同じWeb製作者であることから、多方面に連携が開始した案件にもなった。
- ・ 相談があった年度中に連携を開始した案件とは別で、「連携拡大」という項目を新設した。連携拡大は、複数年度に同一団体による同様の相談案件で他の紹介者の紹介による連携により連携が継続している案件、他の相談者から同じ相談により同じ紹介者をご紹介し多方面の相談者と連携が構築できるいる案件があらわれている。連携の件数という定量的な面と、連携の質の面での定性的な面と両方があらわれている。

相談 No. 等		提供内容・提供方法					
		時間	金銭	物品	場所	ハノウウ	その他（左記以外）
							内容
連携開始	No. 2023-089						● 思いを提供
	No. 2023-094	●					
	No. 2023-101	●					
	No. 2023-112				●		機会提供の意味も含む
	No. 2023-012					● ●	情報提供
	No. 2023-023					●	
	No. 2023-054				●		機会提供の意味も含む
	No. 2023-059					●	
	No. 2023-075	●		●			
	No.2023-092	●		●			
	No.2023-018	●				●	
	「和ろうそくは、つなぐ」	●			●	●	機会提供の意味も含む
連携拡大	No.2023-030	●					
	No.2023-121	●				●	
	No.2023-036	●				●	
	No.2023-057	●				●	
合計（16件）		10	0	2	3	8	2

- 全体の成果と課題（中間支援の3つの役割から見て）
- 情報等が行き届かない所に情報提供を行う媒体役・支援・サポート役（みんなの孫の手）
 - ・ 町会運営アプリ「結ネット」のデジタル媒体を活用して高美町5丁目町会と情報面での連携が定着した。回覧・掲示依頼と言う従来からのアナログ媒体による都塚北町会との情報面での連携が定着した。これら町会との連携により、市民活動団体の広報面及び情報発信先の拡大につながった。
 - ・ 八尾市の世代別人口の平均割合よりも2倍以上ある「子育て世代」及び6倍以上ある「未就学児」が多く住む都塚北町会と都塚南町会を新しい広報先の対象者と定めることが出来た。
 - ・ 両町会近隣の小学校区も含めて「子どもの健全育成」「学術・文化・芸術・スポーツ」の活動分野に取り組む「つどい登録団体」の行事案内チラシや団体紹介パンフレット等をプッシュ型広報である「ポスティング」により試験的に実施した。その成果として、体験会への児童の初参加者が爆発的に増えたことや、個展の来場者数が過去2番目に多かったこと、個展に子育て世代の来場者が増加したと言う属性の変化など、成果が現象として見える形であられた。
 - ・ これらは対象者を定め、対象者の属性を理解した上で、必要とする情報を提供することにより情報提供面での支援・サポートとなった。「つどい」が中間支援の立場として情報提供面での媒体役として機能を発揮することが出来た。
 - ・ これまでの地域活動団体向けにInstagramの操作のレクチャーを行っていたが、相談対応を通じて市民活動団体にもレクチャーのニーズ・需要があることが分かり、結果、対象主体の拡大につながった。今後もレクチャーのニーズ・需要がないか市民活動団体や地域活動団体とコンタクトを取りながら掘り起こしも意識をして行く。
 - ・ 町会との連携、電子媒体の活用と普及、対象者の属性収集と必要な情報提供により、新しい参加者の発掘、市民活動及び地域活動に携わる人財発掘や人材バンクへの登録にもつなげることも可能性として秘めている。
 - ・ 「つどい井戸端会議」も相談対応や展示会の開催等で出会った方が参加され、つながりが生まれていることで個人のつながりも深めることが出来、相談対応でも協力をいただいた。貴重な地域資源の発掘にもつながっている。
 - ・ これら情報提供を通じて、市民活動等へ参画する機会の提供と参加や参画の取りこぼしがないように図って行くことにつなげていくことが次の取り組み目標になる。
 - ・ 並行して、今後想定される懸念案件は、八尾市自治振興委員会がポスター掲示・回覧依頼について、これまで8月と1月を除いて毎月掲示及び回覧を行っていたが、実施頻度が毎月から数ヶ月に1回の頻度に減らすと言う情報を収集した。市民活動団体側として懸念することは、大掛かりなイベントや行事開催について、掲示・回覧の協力依頼により広報面の支援を受けていたが、掲示・回覧を行う頻度が減ることで掲示・回覧が困難になる可能性が出た場合に、「つどい」としてどのような支援が出来るのかを対策を練ることも必要である。そのために町会との連携や町会運営アプリ「結ネット」の普及や活用を促すことで補完的な支援を図って行きたい。数年先になるが、広報のネットワークが構築した際には統合型の支援として発展することも意識をして行きたい。
 - ・ 第二の懸念案件としては、FM ちゃおの閉局により、これまでFM ちゃおが市民活動団体や地域活動団体の活動先を取材されて来たこと、また取材記事をホームページで広報されていた点及び取材記事が蓄積されたアーカイブ記事が閲覧出来なくなっている。ま

た閉局により取材に行く主体が減り、「つどい」がどこまでその役割を補完することが出来るのかという課題がある。今年度からは特に「つどい」としては、蓄積して来たアーカイブ記事を活用するため12年程蓄積した「つどいブログ」の掘起しとしてアーカイブ記事を活用している。新しく記事掲載を行う際に関連するアーカイブ記事をリンクに貼るなど活用をしていく。また「つどいホームページ」の「つどい登録団体紹介」ページには各団体取材した「つどいブログ」のアーカイブ記事をPDFファイルに加工して閲覧出来るようにしている。

- コーディネートといった協働促進と公益を生み出す役割（気づきの提供・心ひとつに）
 - ・ 多様な活動主体や個人が参画する複合組織が中間支援組織として、もしくは中間支援機能として支援を行う場合に、以前からその方法として「総合型」「補完型」「支援型」の3つの支援方法があることを提唱されて来た。
 - ・ 今年度は、「つどい」を介して連携を行った案件が多かった。この案件は「つどい」が相談者及び紹介者が地域資源で不足している部分を「つどい」が補うことで連携につなげた支援が多かった。いわゆる「補完型」の支援方法である。
 - ・ 情報提供・広報面の連携として前項目で触れた3町会との協力・連携の促進が出来た。さらに町会との拡大や充実と言う両面の意味で拡充して行くことが、情報提供面でも、協働促進面でも必要と考えている。その積み重ねにより、校区まちづくり協議会とのつながりにもつなげて行きたい。
 - ・ プリズムホールでの展示会・ギャラリートークは「つどい」を介したコーディネート支援により、試験的な連携や協働実験につながり相乗効果もあらわれた。また多様な活動主体がひとつになって協働が出来るための「共通認識（かつてはシンボルとも表現）」を提示・提供することで連携を進めることが出来た。その共通認識を示す役割、共通認識の必要性を啓発する役割も今後、中間支援の役割として必要とされる。
 - ・ 他の中間支援組織である「やおうえるかむコモンズ推進会議」が発足し本格的に始動している。つどい業務責任者が貴推進会議のアドバイザーとして就任依頼があり、今後の連携が図りやすくなる。協働促進と公益を生み出す役割として連携につなげて行く。

- 活動主体の目的・活動内容等の解説を行い信用・信頼を高める役割（解説役）
 - ・ 以前から、相談対応時も含め、情報提供を行う際には、情報発信元である団体の活動内容や目的を「つどい」が解説し、紹介者等へ信用・信頼を得られるように努めて来た。
 - ・ 今年度は、展示会・ギャラリートークの開催などの人財発掘と出会い、「つどい井戸端会議」での定着により、その人財が備えたノウハウや志を第三者が解説することにより、信用・信頼を高めることが、今後の人材バンクにも相乗効果をもたらすと考える。
 - ・ 連携開始・連携拡大時には、金銭の地域資源が集まる案件がないことから、資金調達につながる支援で、多様な活動主体が継続的な運営支援につながるよう寄与したい。

- 共通認識を深め広めることの意義（市民活動とその支援及び非営利組織経営者の役割）
 - ・ 人や社会のお役に立つことが、楽しいこと、喜びであること、夢であるという人財が、一人でも多く輩出することが、中間支援組織の役割である。または市民活動を推進する役割でもある。共通認識である。
 - ・ 公益は不特定多数に利をもたらすことお役に立つことである。構成員・提供者側が利を

- 得るのではなく、利をもたらす側であることを自覚し啓発することも中間支援組織の役割であり、市民活動の推進する役割である。「利（自己実現）」ではなく「愛（捧げる）」であり、「自己実現」で留まっていたらダメなのではないか。これらも共通認識である。
- 中間支援組織の役割として公益を生み出すことが市民活動の目的であると心の底から思い信じて伝える人財を発掘・育成することが必要である。中間支援組織の役割は「つながることで公益が生まれる。」と信じてつなぎ役になる人財や活動主体を一人でも多く育むことである。これも共通認識である。「つながることで公益が生まれる。」と一番信じていただいたのが、一部かもしれないが「つどい登録団体」である。この方々と共に20年近くを歩ませていただき、助けていただいた。大層かもしれないが同志である。
 - 以上の共通認識を持って行わないと中間支援を含めた八尾の市民活動を後世に継承・承継されずまま、終わりを迎えるのではないかと言う危機感を抱いている。
 - そのような役割を備えた多様な活動主体や人財が生まれることを心から願いながら、そのことを純粋にさせていただき、その純粋性に価値があることを見出し、公益を生み出すために、日々業務を行っている。
 - そのことで公益を生み出す『人財』と『事業』を残して行くことが出来ると信じている。この役割は市民活動団体として、非営利組織の経営者側の役割である。
 - そのような個人や活動主体が生まれ育まれることを「人づくり・人育て」というコンセプトである。3年前のプロポーザル提案のコンセプト設定からさらに深めて来た。
 - 人間性・人格を育み、目に見えない中間支援を遂行し公益を生み出す媒体役（支援・サポート役）・コーディネート役・解説役であることを、事業承継が出来るように、さらに1名のフルタイムスタッフの人財及び雇用を確保していく事が課題である。